

# 女子銀行勤務者に対する 貧血検査の成績

## 第 2 報

阿部昭治 (東洋信託銀行東京診  
療所)

### はじめに

妊産婦貧血研究の一環として、同年齢層の成人女子における貧血の状態を究明することを目的として、都内某銀行の女子従業員に対する貧血の状態を研究した。

昨年度は定期健診に際して医師が必要と認めたもののみ血液検査を行ない、その成績を報告したが、今年度は受診者全員に検査を行なった。同時に貧血症状の発現、生活環境、食生活の状態などをアンケートにより調査して両者の結果を対比分析した。以下その成績を簡単に報告する。

### 成 績

#### I 年齢構成

表 I-1 に示したように 20~24 才台にピークを示し、20 才台が全体の 79.5% を占め、30 才台は 46 名 (5.2%) に過ぎなかった。

#### II 血液検査の成績

1 白血球数の分布は各年齢層とも 5000 ~ 8000 がほぼ 80% を占め、全体の 90% が正常範囲にあった。(表 II-1)

2 赤血球数：正常限界 380 万とするとこれ以下のものは全年で 3.1% に過ぎず、殆んどが正常範囲内にあり、年齢の増加に伴ない増加の傾向を示した。(表 II-2)

3 血色素量：12.0 g/dl 以下を貧血とすると全年で 12.7%，10 g/dl 以下の著明なものは僅か 1.2% に過ぎなかった。年齢別にみると 30 才台にやゝ高目の他は、各年齢層とも殆んど差は認められなかった。(表 II-3)

4 ヘマトクリット：正常限界 37% 以下のものは全年で 12.6% であり、年齢別では年齢の増加に伴ない増加の傾向を示していた。(表 II-4)

5 血清鉄：正常限界 70 g/dl 以下を示したものは全年で 173 名 (20.0%) で、その他は正常範囲内にあった。年齢別にも著しい違いは認められないが、血色素不足の割合よりはやゝ高い傾向にある。(表 II-5)

6 飽和鉄結合能：正常限界以下は 3 名 (0.3%) に過ぎなかった。

#### III 血色素・血清鉄のアンケートとの関連

40 才未満の女子従業員に貧血の一般的症状の有無、生活環境、殊に食生活の状態などをアンケートにより解答を求め、上述各検査成績との関連を求めて分析を行なった。

##### 1：貧血の一般症状との関連

III-1 の表は貧血の一般症状について著明なもの、多少あるもの、ないものと三段階に分けて回答を求めた成績を示した。

血色素の面では、顔色がよくない・手足の冷感・倦怠感・めまいなどの症状がいつもであると答えた群に 12.0 g/dl 以下の貧血が多いことが認められたが、その反面、頭痛・耳鳴り・手足のしびれ・失神・動悸・息切れなどはむしろ“ない”と答えた群に多い傾向を示した。

血清鉄の面でもこの傾向はほぼ同様であった。

月経については月経血量の多いと答えた群に貧血は多く、鉄の不足も目立っているが、不正出血ではあまり差がなく、月経周期が不規則と答えた群に規則的な群より貧血も鉄不足も少なかった。これは不規則というのは、月経回数が少ないことによるものと考えられる。

##### 2：生活環境との関連

独りで下宿住まいの者に貧血、鉄不足の傾向が著明であり、学歴の高いもの、在職年数の多い程、貧血の傾向を認めたが例数がやゝ少ないので、はっきりしたことはいえない。

その他あまり著明の差は認められなかったが、学生時代に運動クラブでスポーツをやっていたものには貧血、鉄不足ともあまり差はないのに、現在定期的に運動を行っている群では、やゝ貧血、鉄不足の傾向が認められ、いわゆるスポーツ貧血に属すると考えられる。

### 3：食生活との関連

食事を作るのが母親である群は、さすがに貧血、鉄不足とも他の群より少く、食事の摂取状態では、意外と朝食摂取の有無に拘らず差はなかったが、昼夜食は、ともに外食の多い群に貧血、鉄不足の多い傾向が認められた。

食物の好き嫌いでは、肉・魚など蛋白源、野菜・果物などあまり好まないと答えた群に意外と貧血は少ないのに、鉄不足は逆にかなり著明であり興味深い。脂肪分の少い群、砂糖類の多い群ではともに貧血に差はないのにやはり鉄不足が目立ち、牛乳・乳製品などでは摂取する群に貧血、鉄不足とも少ない傾向を認めた。

又主食偏重群でも貧血、鉄不足が多い傾向が認められた。

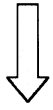
### 考 按 ・ 結 論

1：昨年度の血色素の検査で12.0g/dl以下の

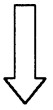
貧血は164名中22.6%に対し、今年度は866名中12.7%で減少しているが、これは対象の選択上当然のことと考えられる。

2：今回のアンケート調査では、“あり”“ときどきあり”“ない”に準じた三段階に回答を限定したが、回答の基準を全く提示せず、回答者の主観、判断にまかせたため、回答が曖昧となり、結果も不正確の非をまぬがれない。にも拘らず、家庭で母が主として調理を行っている場合（弁当持参を含めて）、独り暮らしやあるいは外食の多い群に比較して貧血も鉄不足も少い傾向が認められ、栄養的な配慮が貧血の原因となり得る可能性を示唆している。

3：主食偏重群に貧血の多い傾向は当然であるが、牛乳・乳製品摂取の群に貧血、鉄不足とも少いことが認められ、肉・魚、野菜・果物の少い群に今回の調査では貧血は目立たないのに鉄不足が目立ったのは興味深い。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

妊産婦貧血研究の一環として、同年齢層の成人女子における貧血の状態を究明することを目的として、都内某銀行の女子従業員に対する貧血の状態を研究した。

昨年度は定期健診に際して医師が必要と認めたもののみ血液検査を行ない、その成績を報告したが、今年度は受診者全員に検査を行なった。同時に貧血症状の発現、生活環境、食生活の状態などをアンケートにより調査して両者の結果を対比分析した。以下その成績を簡単に報告する。